

新潟焼山の火山活動解説資料（平成 29 年 12 月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

噴煙活動及び地震活動は、低下しています。

しかしながら、新潟焼山はこれまでも噴気活動の活発化を繰り返しているため、今後の活動の推移には注意してください。山頂から半径 1 km 以内（想定火口内）では、地元自治体等により立入規制が実施されています。登山者等は地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

活動概況

・表面現象の状況（図 2、図 3 - 、図 4、5）

今期間、山頂部東側斜面の噴気孔からの噴煙は、火口縁上概ね 100m 以下で経過しています。2015 年夏頃から噴煙はやや高く上がる傾向が認められ、2015 年 12 月下旬からは噴煙量も多くなりましたが、2016 年秋から噴煙高度は低下してきています。

・地震や微動の発生状況（図 3 - 、図 6 ~ 8）

今期間、火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しています。

火山性微動は観測されていません。

新潟焼山では、2015 年 3 月頃から火山性地震回数が増加しだし、2016 年 5 月 1 日にはさらに増加し、低周波地震も発生しました。その後、火山性地震は減少し、2017 年頃からは、さらに少なくなっています。

・地殻変動の状況（図 1、図 3 - ）

GNSS¹⁾連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

2016 年 1 月頃から新潟焼山を南北に挟む基線で伸びがみられていましたが、2016 年夏以降は停滞傾向が認められます。

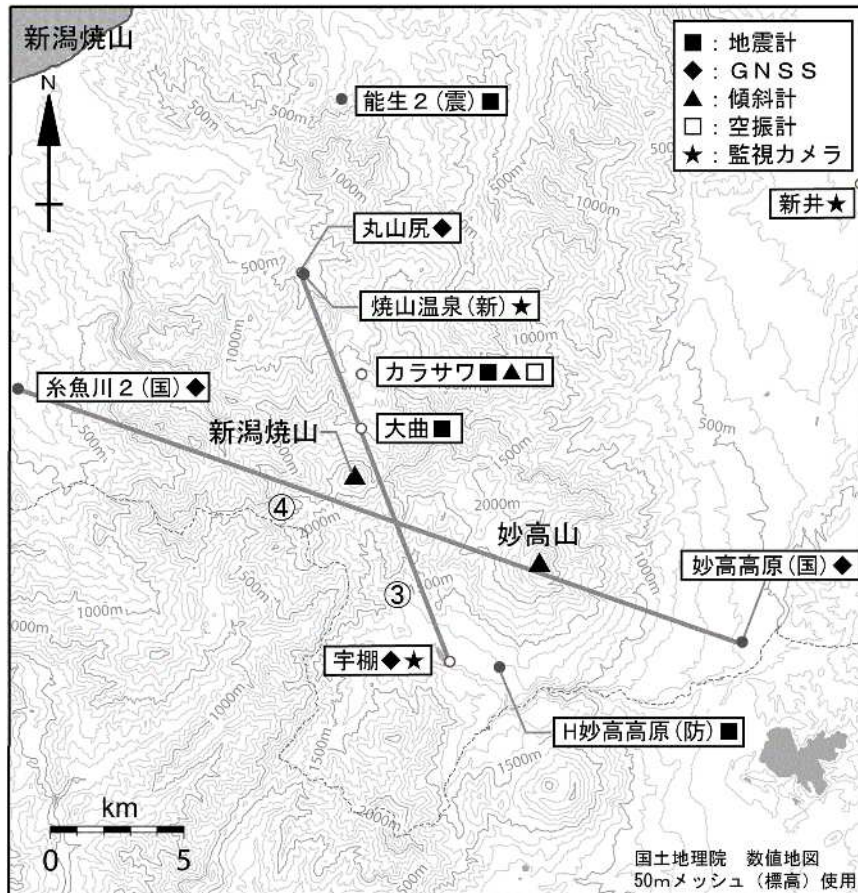
1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（平成 30 年 1 月分）は平成 30 年 2 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、京都大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、新潟県及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 29 情使、第 798 号）。



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国) : 国土地理院、(防) : 防災科学技術研究所、(震) : 東京大学地震研究所、(新) : 新潟県

図 1 新潟焼山 観測点配置図
 (GNSS 基線 は図 3 の に対応しています。)



図 2 新潟焼山 山頂部の噴煙の状況
 (左 : 新井監視カメラ (12 月 4 日) 右 : 焼山温泉監視カメラ (12 月 15 日) による)

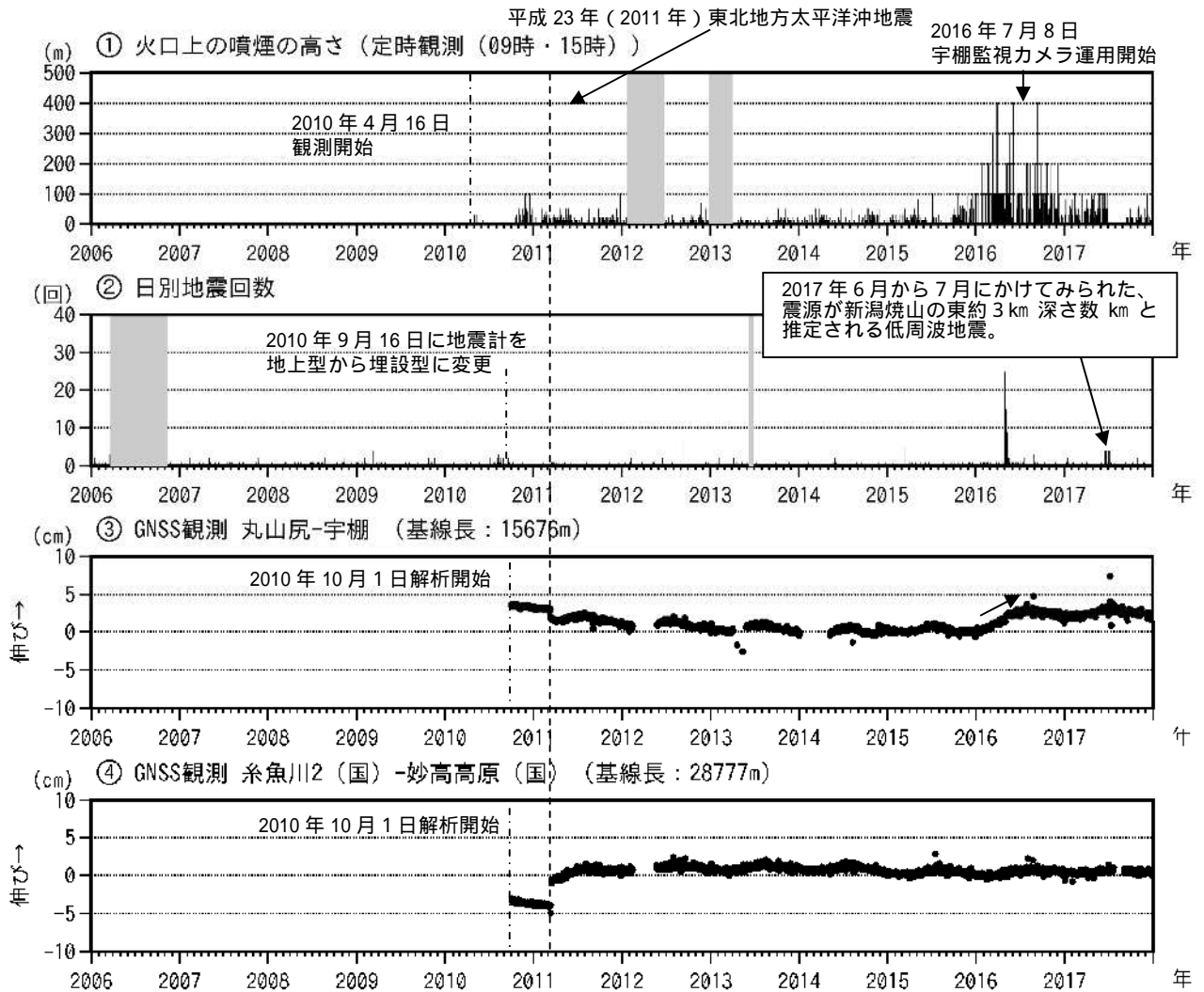


図3 新潟焼山 火山活動経過図（2006年1月1日～2017年12月31日）

(国): 国土地理院

の灰色部分は機器障害による欠測を示します。

の空白部分は欠測を示します。

は図1の に対応しています。また、2016年1月にGNSSデータ解析方法を変更しています。

- ・今期間、山頂部東側斜面の噴気孔からの噴煙は、火口縁上概ね100m以下で経過しています。
- ・2017年7月から8月にかけては、期間を通して視界不良のため山頂部が見えないことが多く、また観測できた時間帯も、山頂東側斜面からの噴気は観測されませんでした。
- ・の基線で2016年1月頃から伸び（矢印）がみられていましたが、2016年夏以降は停滞傾向が認められます。

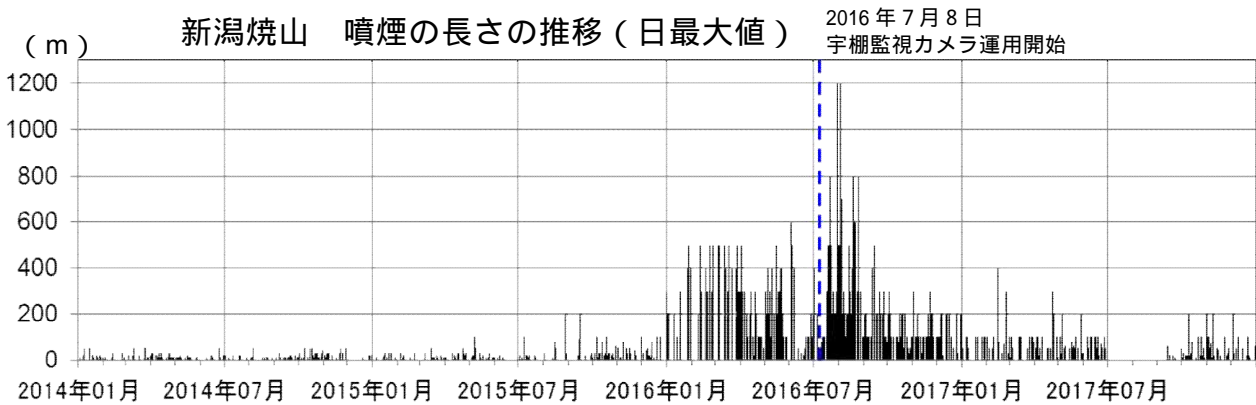
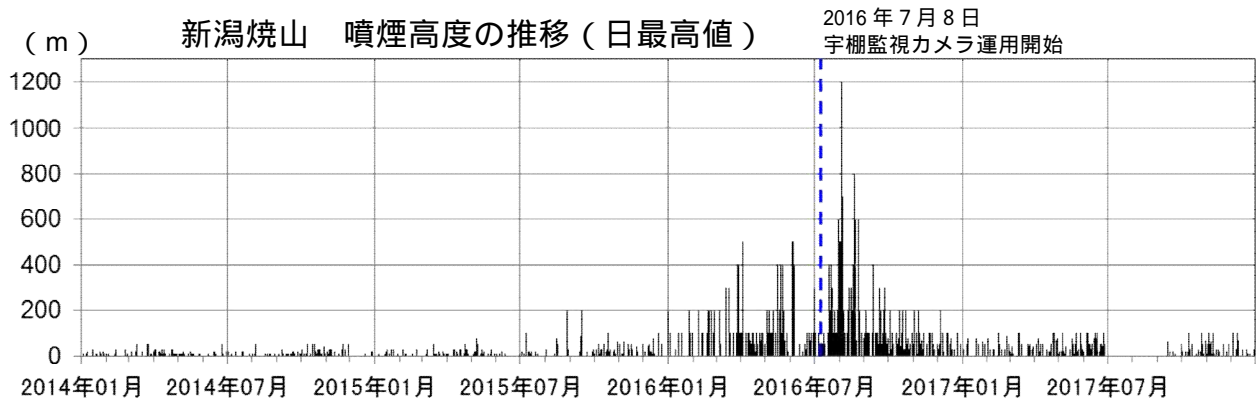


図 4 新潟焼山 噴煙高度と噴煙の長さの推移

（それぞれ日最高値及び日最大値、2014 年 1 月 1 日～2017 年 12 月 31 日）

噴煙高度は強い風の影響を受ける場合があるため、風の影響を受けにくい噴煙の長さ（図 5 参照）のグラフも示しています。

2016 年 7 月 8 日に宇棚監視カメラの運用を開始しました（宇棚監視カメラの位置は図 1 を参照）。それ以前は、最高値が確認できていないことがあります。

- ・2017 年 7 月から 8 月にかけては、期間を通して視界不良のため山頂部が見えないことが多く、また観測できた時間帯も、山頂東側斜面からの噴気は観測されませんでした。

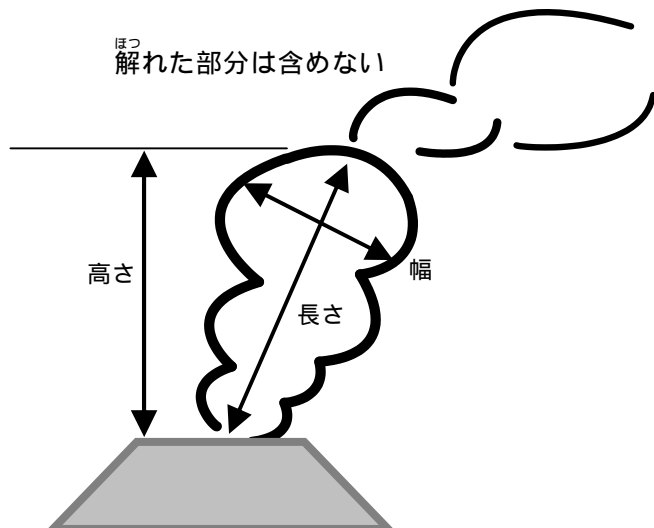


図 5 噴煙の長さ、幅、高さの概念図

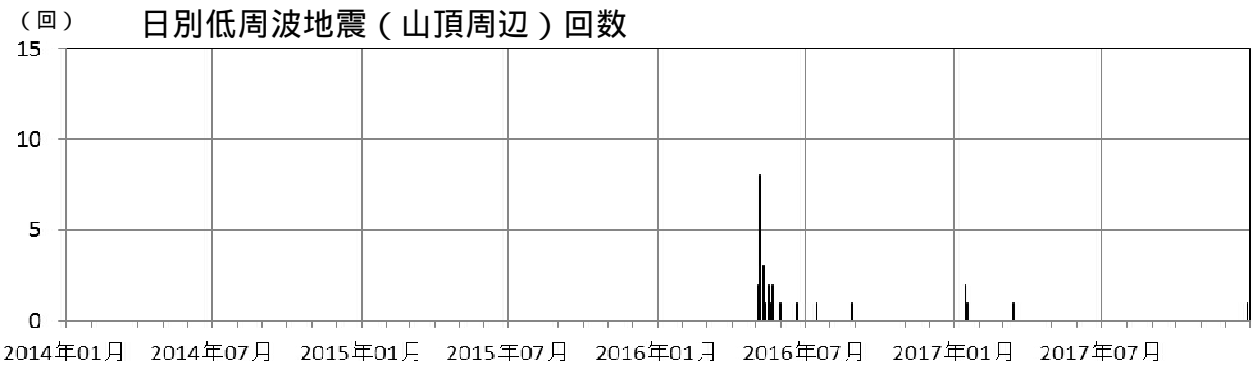
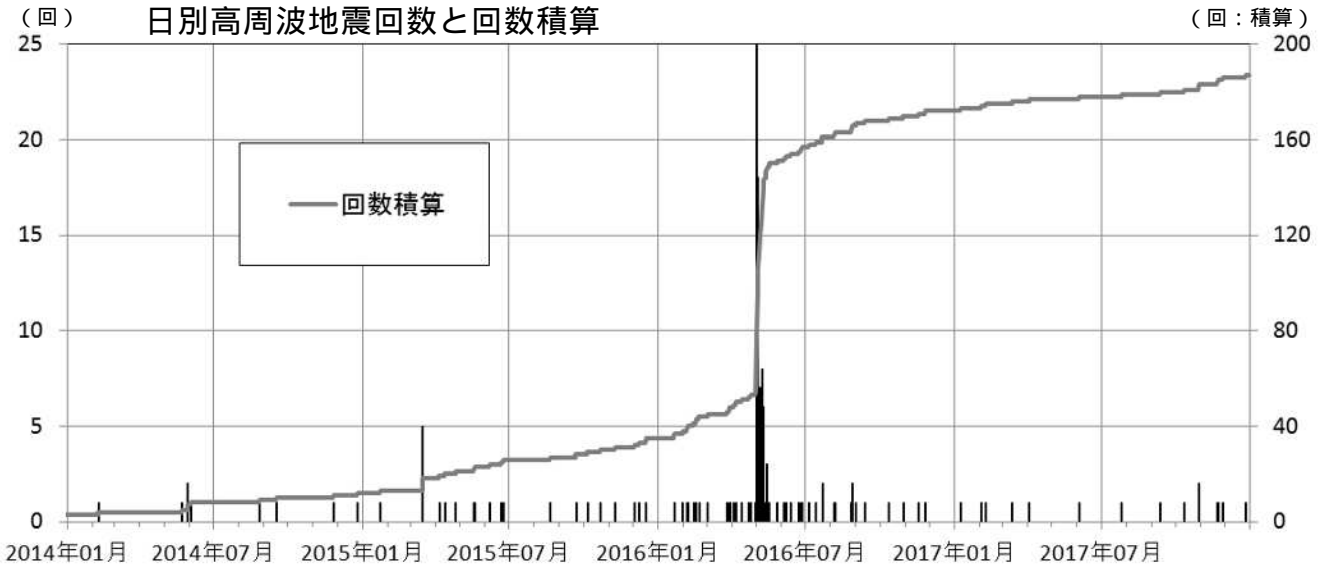


図6 新潟焼山 日別地震回数（2014年1月1日～2017年12月31日）

地震の主な種類（図7参照）ごとの回数を掲載しています。

- ・2015年3月頃から火山性地震回数が増加しだし、2016年5月1日にはさらに増加し、低周波地震も発生しました。その後、火山性地震は減少し、2017年頃からは、さらに少なくなっています。

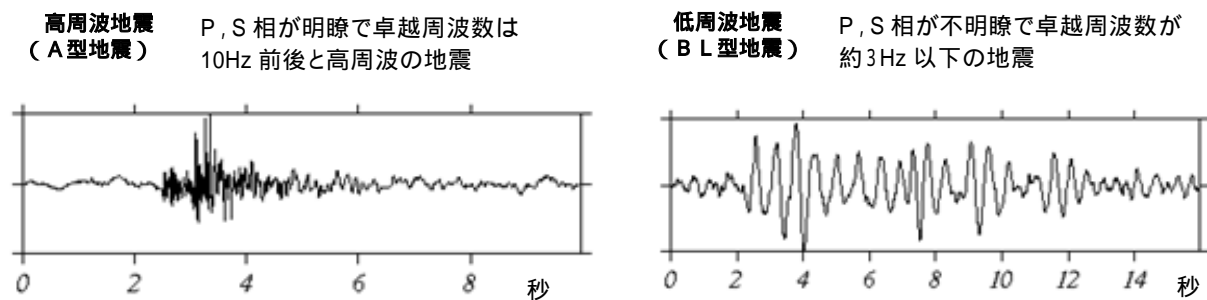


図7 新潟焼山 火山性地震の特徴と波形例

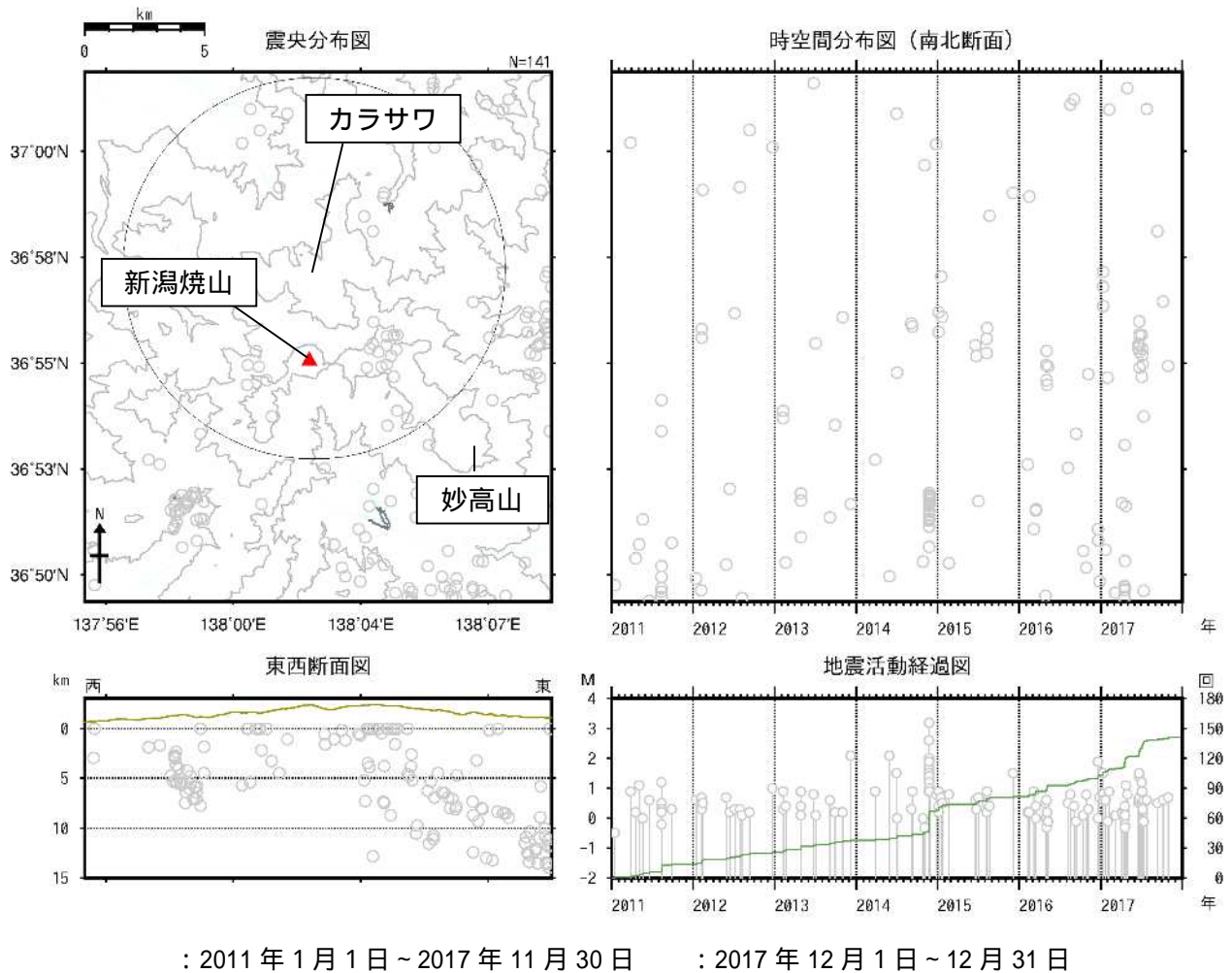


図 8 新潟焼山 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動(2011年1月1日～2017年12月31日)

震央分布図中の円は図3 - 及び図6の計数対象地震(カラサワでS-P時間1.5秒以内)のおよその範囲を示しています。

広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。

M(マグニチュード)は地震の規模を表します。

図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

- ・今期間、新潟焼山周辺で震源の求まった地震はありません。